

沖澤と隠岐

ふるさとへの前奏曲

—上— 出会い



青い海と
森の
音楽祭

「サイトウ・キネン・オーケストラ（SKO）は猛者ばかりの集まりだからね、若い女性の指揮者が来て、正直、どうなんだろうと思ったの。ところが最初から求心力がすごかったし、みんなが彼女に魅了されていたの。こんなこと今までなかった」。世界的指揮者の故小澤征爾さんから

直々に指名を受け、同オケの首席客演指揮者に就任した沖澤のどか。2022年8月、SKOでコンサートマスターを務める矢部達哉は沖澤との初共演を終え、知人に興奮気味に語った。矢部は国内の楽団のリーダーとして名だたる指揮者と共演を重ねてきた。その矢部が、すっかりほれ込んでしまった。

「新しい風を」2人の決意



（写真左から）隠岐さん、矢部さん、沖澤さん。矢部さんを介して隠岐さんと沖澤さんが出会ったことで、今回の音楽祭が実現した—2024年8月、長野県松本市（隠岐さん提供）

く、このまま歌い続けていくのか—という不安を抱いていた。

「こんなに人を幸せにする声の持ち主はいない。全力でサポートする。歌い続けて」。

共演した矢部と国内を代表するピアニスト横山幸雄に熱烈な励ましを受け、隠岐の気持ちちは晴れた。「私には歌しかない」。矢部の提案でトリオを結成。全国で公演を重ねた。23年6月、隠岐は矢部らとともに弘前市で弘前高校創立

140年記念コンサートに出演。故郷で初めてとなる大々的な舞台は何ものにも代えがたかった。「こんなにも安心感を持って言葉の世界を生きることができると」

帰りの新幹線で遠くなるふるさとの景色を窓越しに眺めていたら、矢部が言った。「そんなに悲しい顔をするなら、また青森でやったらいい」。

隠岐はこのとき初めて、ふるさとでの音楽祭を意識する。23年秋、矢部を介して沖澤と隠岐が東京で出会った。初対面の2人。隠岐は弘前で受けた感動を沖澤に語った。

「青森にもっともって音楽を届けられたらいいなって思うの」

沖澤も、思いは同じだった。東京国際音楽コンクール入賞指揮で1位になった翌年の2019年、ブザンソン国際若手指揮者コンクールで優勝。

6月30日に開幕する第1回青い海と森の音楽祭まで3カ月。沖澤のどかと隠岐彩夏という本県出身の若き音楽家が音楽祭をどう立ち上げ、未来を見据えているのか伝えま

す。

※この連載は3回です。

（文中敬称略）

◇

欧州でも認められ、活動の場は一気にグローバルになった。一方でふるさとから遠くなればなるほど、ふるさとへの思いが募った。「青森という自然に囲まれた環境で音楽をのびのびやってきたことがいかに貴重だったか。ふるさとに恩返しをしたい」

沖澤と隠岐。本県が輩出した2人の若き音楽家が出会いに導かれ、一つの決意を固める。「ふるさと青森で音楽祭を始めよう。ふるさとに新しい音楽の風を吹かせよう」